

児童発達支援

marcher

支援の基盤と内容、日々の活動プログラム概要



事業名の由来について……

marcherとは、ひとりひとりの一歩(スピード)で、幸せをつかめるよう共に歩んでいける私たちでありたいという願いを込めてつけました。

子ども達には輝かしい未来があり、可能性が無限に広がっています
その可能性を最大限に広げていくのが私たち大人の役割でもあり使命であります

すべての子ども達に…

特性や性別、年齢に関係なく健やかに過ごせる空間

友達と仲良く過ごし、笑顔が溢れる瞬間

自分で選び、自分で決めれる自己決定権

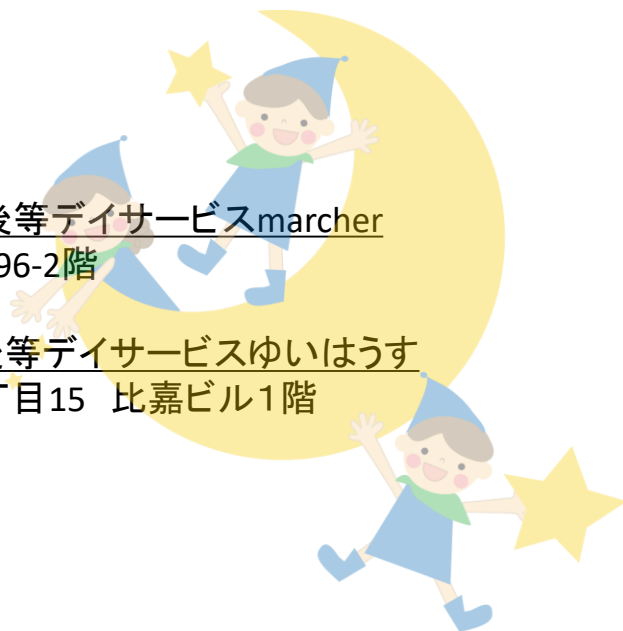
自分を好きになり、他人の事も考えられる自己肯定感と協調性

marcherに関わるすべての「人」に幸せや愛が感じられる場所・私たちでありたいと思います

○運営

合同会社 プロスマイル

- ・ 児童発達支援・放課後等デイサービスmarcher
那覇市首里石嶺町4-96-2階
- ・ 児童発達支援・放課後等デイサービスゆいはうす
那覇市首里汀良町3丁目15 比嘉ビル1階



○経営理念

Mission(存在意義、使命)

～ソーシャルイノベーションを通して人々に幸せを～

- 1、障がい児(者)が安心して暮らせる社会の創造
- 2、子ども達が夢を持ってすくすく育つ社会の創造
- 3、職員の幸せの追求

Vision(方向性)

- 1、私たちは、児童デイサービス以外にも障がい者の分野及び高齢者介護の分野の事業も展開していきます。また「人」は宝との思いから職員を大切に、働くことにやりがいを持ってもらい、個人の意見を通しやすい職場を目指します
- 2、私たちは、職員に対して自己実現の場を提供できる企業を目指します
- 3、福祉サービスでの新たな取り組みや、既存以外のサービスを見つけ、実践し福祉サービスの充実を図ります。

Value(価値観)

- 1、私たちは「生きる」ということの素晴らしさ(喜び)を感じ、人から教わった事を自分の人生に活かします。
- 2、私たちは、大きな愛で想いを伝えていきます。
- 3、私たちは、素直な心で「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えます。
- 4、私たちは、仲間を認め、信じ、支え、共に成長し、応援します。
- 5、私たちは、5年後、10年後のなりたい自分をイメージし成長を続け必ず夢を叶えます。



○営業日、営業/サービス提供時間

-営業日-

月曜日 ～ 土曜日(祝日も営業)

-お休み-

日曜日、正月休み(31日、1日、2日、3日)旧盆(ウーケイ)不定休(職員研修など、年数回)

-営業時間-

-サービス提供時間-

月曜日 ～ 金曜日 9:30～18:30 10:00～18:00

土曜日、祝日、長期休暇 9:00～18:00 9:30～17:30

○体験について

営業日及びサービス提供時間内であれば、体験(当日の活動に参加)できます。

・平日 10:30～17:30

・土曜日、祝日、長期休暇 10:00～16:30

(午前中から受け入れ可能です。午後は野外・課外活動に出かけることもあります)

・要項

①3回の体験が可能(無料) ②事前の見学(面談あり)

③アレルギー等の有無

※昼食、おやつ提供時のアレルギーの有無

○利用可能地域

利用可能な地域は以下の通りです。

那覇市

首里

浦添市

一部地域外(西原、南上原)

※利用可能地域以外にお住まいでも、利用可能な場合もあります。

○送迎について

利用可能地域内において送迎を行っています。

・保育園・こども園→事業所・事業所→ご自宅/事業所⇄ご自宅

※サービス提供時間内で送迎いたします

※送迎場所、ルートにより事業所出発時間、乗り合わせ児童は異なります

※利用可能地域内にお住まいで利用可能でも現利用児童の送迎の関係上送迎できない場合もあります。

○現在の利用児童状況

在籍児童

令和6年10月1日現在

	男子	女子	計
未就学児童	8	1	9
小学生(低学年)	8	2	10
小学生(高学年)	5	3	8
中学生	0	1	1
高校生	0	0	0
児童数	21	7	28
	男性	女性	
職員	2	4	6

○現在の利用児園、学校等

- ・きゃんぱす保育園.....1名
 - ・てだこ保育園.....1名
 - ・城西こども園.....1名
 - ・久場川みらいこども園...1名
 - ・善隣幼稚園.....1名
 - ・牧港ひまわりこども園...1名
 - ・西原南こども園.....1名
 - ・坂田こども園.....1名
- ・大平特別支援学校...1名
 - ・城西小学校.....1名
 - ・大道小学校.....1名
 - ・城東小学校.....2名
 - ・石嶺小学校.....4名
 - ・石嶺中学校.....1名
 - ・前田小学校.....2名
 - ・内間小学校.....1名
- ・沢岷小学校.....1名
 - ・当山小学校.....1名
 - ・浦添小学校.....1名
 - ・坂田小学校.....1名
 - ・西原東小学校...1名
 - ・仲西小学校.....1名



marcherの支援について

四つの支援柱(支援の基盤)

本人への 発達支援

子育て支援

- 子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図る
- 自立支援と日常生活の充実のための活動

家族支援

親と協議の子育て支援
(親育ち支援)

- 児童が最大限に成長・発達できるようその基盤となる家族生活を支援する
- 親子や兄弟間をしっかりと構築するために必要なら家族参加型の支援を行う

移行支援

地域、仲間作り
支援

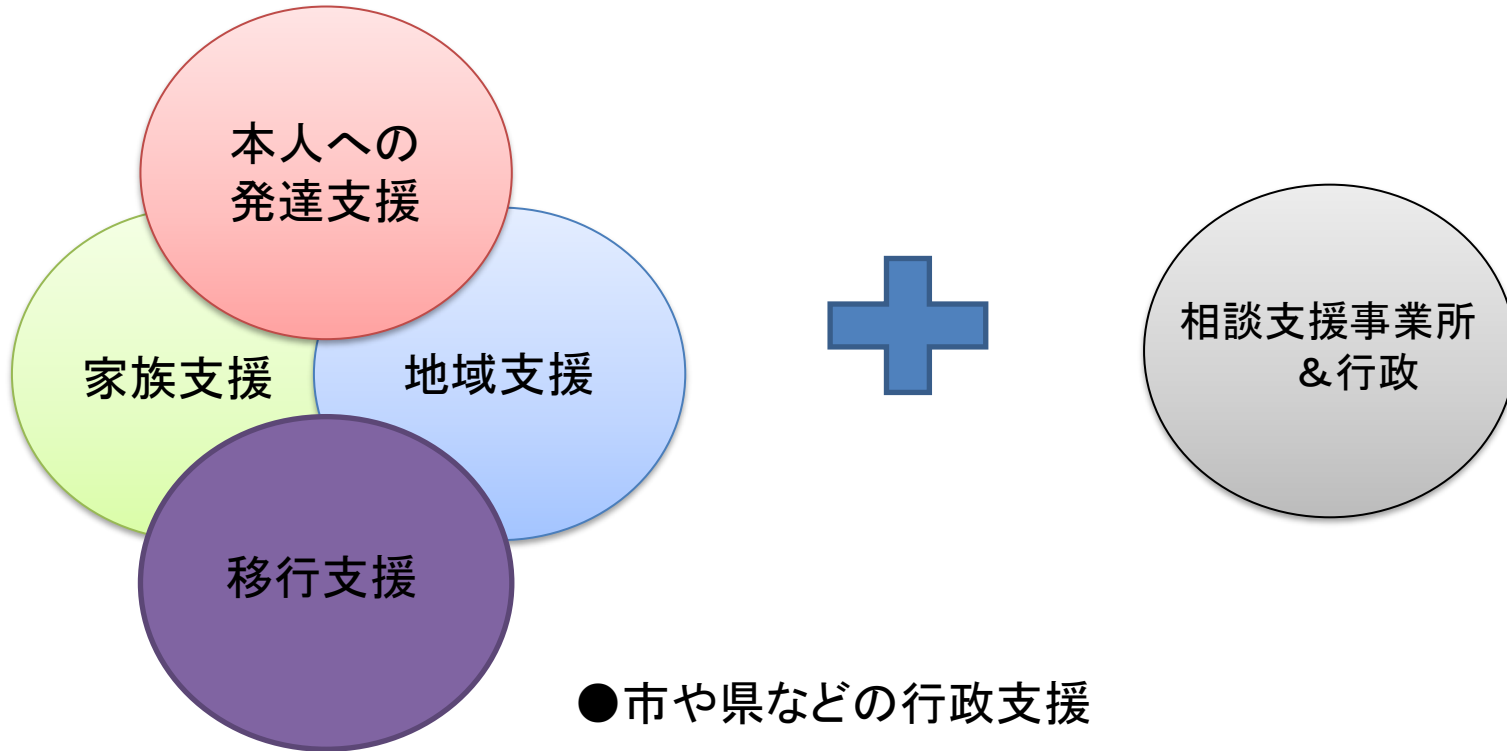
- 保育園やこども園への移行や移行先との支援内容の共有や就学に向けた課題の共有などを行う
- 地域とつながりながら日常生活を送るための取組(児童館 公民館など地域住民との交流)

地域支援

地域連携による子ども
支援,地域生活の支援
(地域づくり支援)

- 地域との交流の機会の提供
- 地域イベントの共有、参加

四つの柱をサポートする役割



●市や県などの行政支援

- ・市や県などの行政支援→相談支援専門員を通して行政への手続きや、支援の相談、お願いなど

●協力者へのパイプ役

- ・家族、学校、行政、地域、病院等のパイプ役のお願い→担当者会議やモニタリングの開催など



年間活動(行事)

年間を通して季節に合わせた活動や子どもたちの要望からピックアップし活動を決めています。

体験や活動をいっぱい経験し楽しい思い出やドキドキな気持ちでチャレンジしたり悔しい思いもするかもしれません。すべての経験が糧になり成長につながっていけるよう支援者も一緒に楽しく活動していきます。

平日活動: 個別課題(個別支援計画)・集団活動(レクレーション、心の学習など)
・学習(宿題、課題)

祝日、土曜日: 調理実習・おやつ作り・野外活動(公園)・課外活動(イベント参加、児童館など)

長期休み: 調理実習・おやつ作り・野外活動・課外活動・ミニプール遊び・流しそうめん・川遊び・ゲーム大会・スポーツ大会・おつかれさま会・七夕まつり・ハロウィンパーティー・クリスマスパーティー・ピクニック・豆まき・お楽しみ会など

支援方針

marcherの約束

- ・一人ひとりが楽しく過ごせる居場所作り
- ・一人ひとりが安全で安心できる環境作り

大切にすべき事

- ・好奇心を引き出す(幸せづくり)
- ・遊びからの経験を積み重ねていく(基礎作り)
- ・周りとの関係性を構築する(安全基地づくり)

実現に向けた考え方

- ・愛着関係を育む
- ・安全で安心な空間づくり
- ・コミュニケーション力をつける
- ・レジリエンス力を身につける
- ・選ぶ力、決める力、他律から自律へ
- ・発達に合わせた支援プログラム(5領域)
- ・課題に対する支援のPDCAサイクル化

実現に向けた取組

- ・個別課題
- ・集団活動
- ・余暇過ごし
- ・調理実習・おやつ作り
- ・野外・課外活動

marcherの役割

一人ひとりが楽しく過ごせる居場所作り

特性、年齢、性別に関係なく、支援者と子どもたちが、楽しく笑顔で過ごせる居場所作り

marcherの役割

一人ひとりが安全で安心できる環境作り

目配り、気配りできる支援者配置、的確なルール、マニュアル作り、支援者、児童が過ごしやすい環境作り

marcherの役割

実現に向けた考え方

愛着関係を育む

愛着とは「特定の人と結ぶ情緒的なこころの絆」とも言われています。親や支援者がしっかり関わっていても、こどもの特徴、特性に合わない関わり方をすると愛着に問題が生じることがあります。

愛着形成する上での3つの基地機能「探索基地」「安全基地」「安心基地」になれる大人を見つけ関係を築くことで精神的自立ができより愛着関係がつくれていきます。支援者は各々、こどもとあった関係を築き関係を育んでいきます。

marcherの役割

実現に向けた考え方

安心で安全な空間作り

こどもたちはいろいろな経験をすることで心も体も育ち成長していきます。「心配だから」「苦手だから」で全て親や支援者が介入しすぎたり全介助しすぎたりすると学童期にあがっても親離れ、支援者離れできずいつまでも指示まち、チャレンジしないなど意欲もなくなります。そのためにも幼少期には色々な経験をすることで体験を積み心も体も成長します。虫取り、遊具で遊ぶ、海や山で遊ぶなどをすると少し危ないこともあります。そこは事前の下調べ、適切な職員配置、危険になりうる事柄の除去を行うことで、色々な経験がチャレンジできます。

安心で安全な空間を作り色々な事への経験を大切にしていきます。

marcherの役割

実現に向けた考え方

コミュニケーション力をつける

人の気持ちを察するのが苦手、抽象的な表現が苦手、衝動性があり唐突な発言をしてしまう、相手は伝えたつもりでも、多動や不注意で聞いていない、聞いて理解するまでに時間がかかる、伝えたい分が出てこない、発語が上手く伝わらない、発語がない、理解が難しいなど、一人ひとり困り感や課題がちがいます。困り感をみつけ一人ひとりにあった課題を行いコミュニケーションを学びます。

marcherの役割

実現に向けた考え方

レジリエンス力を身につけ高める

立ち直る力、心の回復を意味します、「折れない強い心」ではなく、ときには折れたり曲がったりするけどまた立ち直せる心です。折れる心を否定しないで頑丈な鉄塔ではなくしなやかな木のイメージ、コミュニティーに入りコミュニケーションを取る上で人との考え方や行動の違いは必ず出ます。自分の意見だけを通し場を乱す、相手の意見だけを聞き入れてストレスを感じてしまう、様々な場面に直面した時にレジリエンス力があることで立ち直る力が強くなります。

marcherの役割

実現に向けた考え方

選ぶ力、決める力、他律から自律へ、褒めてあげる、少しずつ

自分で選ぶことは自分で考えて判断する力につながります。選ぶ力を育てれば自然と考え調べる力もついてきます、宿題はいつするのか、どの活動を先にするのか、小さなことでも自分のことは自分で決めてもらいます、時には自分で決めた事が間違っていたり叶わない事もあります、しかし子どもたちの考えを頭ごなしに否定はせず、その決断を尊重してあげることが大事で、また正しい決断への道標やサポートが大事になっていきます。

またいいところをいっぱい見つけ、いっぱい褒めてあげます。

出来ていないことに焦点を当てるのではなく、できたことに焦点を当てていきます、できることから少しずつ、できることしかできません。

子ども等を「認める」「褒める」「大事にする」を常に意識していきます。

marcherの役割

実現に向けた考え方

5領域

「健康・生活」→食育(調理実習、おやつ作り)ADL(身辺自立等)のトレーニング

健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出します、また睡眠や食事、排泄等の基本的な生活リズムを身につけられるように支援します

marcherの役割

実現に向けた考え方

5領域

「運動・感覚」→集団活動(粗大、微細運動)野外活動(遊具、ボール遊び)など

姿勢や運動、動作の向上や保有する感覚の総合的な活用を示します。

marcherの役割

実現に向けた考え方

5領域

「認知・行動」→ビジョントレーニングや個別課題(マッチング等)
余暇過ごし(工作、粘土、スライム遊び)など

感覚を活用して必要な情報を収集して認知機能の発達を促したり、物の機能や形の違い、色や音の変化を知り入ってくる情報の処理やこだわり、特性の配慮等に対する支援を行う。

marcherの役割

実現に向けた考え方

5領域

「言語・コミュニケーション」→集団活動(伝言ゲームやサイレントゲーム)
個別課題(学習)など

具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけたり、相手の意図の理解や言語を受容し表出する支援を行う、ノンバーバルコミュニケーションの取得や、読み書き能力の向上を目指す。

marcherの役割

実現に向けた考え方

5領域

「人間関係・社会性」→小集団での余暇過ごし(カード遊び、ごっこ遊び、ボール遊び)など

アタッチメント(愛着行動)を形成し信頼関係の構築や適切な関係性を理解し安定した人間関係を構築する、感覚運動遊びから象徴遊びへの支援、ひとり遊びからの共同遊びへの支援、自己理解と自己コントロールを知る

marcherの役割

実現に向けた考え方

課題に対する支援のPDCAサイクル化

活動はきちんと記録に残します、また活動はPDCAサイクルを活用しP(計画)をきちんとたて、D(行動)におとしC(確認)振り返りをきちんとおこない、A(修正)改善や継続の判断を行います。

marcherの役割

実現に向けた取り組み

個別課題

個別支援計画、具体的支援シート、個別課題シートに基づき
支援者とマンツーマンや同じ課題を持つ児童同士での小集団活動で
行う、学習系の課題から発語、手先、指先トレーニング、感覚ト
レーニング、心の学習(高学年)などを行う

marcherの役割

実現に向けた取り組み

集団活動

当日の利用者全員で行う活動から少人数や特定児童同士で行う活動があります。事前に職員間で職員配置や対象児童、キーポイント、目的などを共有し活動を行います、そして業務後や翌日に振り返りを行い次回の活動に活かしていきます。

集団活動の目的は結果ではなく過程を大事にします。

順番を守れるか、他児童の応援ができるか、勝ち負けにこだわらないかなど、協調性を高めていきます、たまに勝ち負けをつける活動を行い向上心や達成感なども感じる活動を行います

marcherの役割

実現に向けた取り組み

余暇過ごし

各々自分で決めた余暇を過ごします。お友達とトランプをする、読書をする、おままごと遊び、工作をする、子ども達は、一人で過ごしたい、特定の子と遊びたい、支援者と遊びたいなど、日々気持ちは変わります。各々の気持ちを尊重しながら、安全で安心できる環境設定を大事にしています。

また余暇の時間で他児童と触れ合うことで自然に社会性、協調性の大切さに直面します。設定された集団活動とは違い、いろんな事が起こります。そこに支援者が寄り添いながらフォローに入り子ども達は社会性、協調性の大切さに気づいていきます。

marcherの役割

実現に向けた取り組み

調理実習・おやつ作り

学校休校日に、月隔週で調理実習かおやつ作りを行っています。包丁やピーラー、調理はさみを使って食材をカットし鍋振りやかき混ぜなど炒め作業まで行います。

おやつ作りでは一生懸命ホイップ混ぜや小麦をこねるなどの作業をしています。

カレー、ハンバーグ、焼きそば、オムライス、ハンバーガー、サンドイッチ

パンケーキ、プリン、アイスクリーム、カップケーキ、ひとくちグミなど

marcherの役割

実現に向けた取り組み

野外・課外活動

学校休校日には野外や課外活動を定期的に行っています。少し遠出して大きな公園や海、山に出かけ思いっきり遊びます。お散歩、遊具遊び、鬼ごっこなど日頃は長時間遊べない事を野外で体験します。また課外活動として、児童館や地域、季節イベントに参加したり、博物館、企業見学などに出かけいろんな体験をします。また高学年になると買い物でのお金や店員さんとのやりとりなどライフスキルも身につけていきます。

発達の特徴に合わせた配慮①

知的障害やボーダーライン知能

- ・より具体的にわかりやすく指導できる(日常生活にあるもの、多感覚教材の使用)
- ・子どもが達成可能な目標を設定する ・社会自立を念頭に置いた教育課題の設定

LDや言語発達の遅れ

- ・自己効力感(「できそうだ」という気持ち)を持たせる・苦手なことの負担を減らす
- ・ほかの特性との併存に配慮する

ADHD(注意欠如多動症)

- ・刺激を減らし集中しやすい環境を整える・肯定的な評価をする
- ・してよいこと、してはいけないことを前もって伝える
- ・クールダウンできる場所を確保する

ASD(自閉スペクトラム症)

- ・浅くても狭くても、安定した人間関係をつくれるようにする
- ・ルールを具体的に教える・他者の視点や気持ちを解説し、一緒に考える
- ・視覚化、構造化をする・感覚過敏への配慮・見通しを持たせる
- ・パターンやスケジュールを大切にする(慣れたら、崩れた時の対処法)

発達の特徴に合わせた配慮②

視覚優位

目で見た情報に対して感受性が高い
読書や絵を書くなど視覚的学習が長けている
過敏→高所恐怖症、いろんな物に目が行く、明るさに敏感
ゲームや映像などに依存しやすい

聴覚優位

耳から入ってくる情報に対して感受性が高い
人の話を聞いて学習することに長けている
過敏→いろんな音が気になる、音に集中しすぎる

体感覚優位

身体から伝わる情報に対して感受性が高い
手先が器用、手を使っての表現が長けている
過敏→痛みに弱い、痛みに鈍感、パーソナルスペースが狭い
パーソナルスペースがない、他人に手が出やすい

marcherの役割

職員の質の向上

必要に応じて公的な外部研修に参加し、それらの内容を社内のスタッフに伝達する社内研修を併用しながら、スタッフの知識と技術の向上を図る。

研修内容として

新入社員研修、事例検討研修、虐待防止研修、身体拘束未然防止研修、業務継続計画（BCP）等を実施します。



安全で安心できる居場所作り

楽しく過ごせる居場所作り

個別課題

余暇過ごし

集団活動

課題に対する支援のPDCAサイクル化

調理実習・おやつ作り



本人

発達支援

地域支援

家族支援

自己覚知のお手伝い

野外・課外活動

レジリエンス力を身につけ高める

コミュニケーション力をつける

信頼関係の構築

選ぶ力、決める力

発達に合わせた支援プログラム(5領域)

褒めてあげる、少しずつ